

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会

♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK

会報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第603号

(毎月10日発行) 2022年6月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 福井 紀郎

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥

2022. 6. 10 ♥♥ No. 179 ♥♥♥♥♥



百折不撓

特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 福井 紀郎

「代表になるということ」、「初心を忘れずに」、「変える決意」、「本当に必要なこととは」、「転換期」、そして今回の「百折不撓」と巻頭言を認めることを重ね、この度、4期目の会長を託していただきましたことについて、日ごろより北海道協議会の活動に対しご理解ご協力をいただいております会員の皆様をはじめ関係者の皆様に感謝を申し上げ、この文面をもって新年度の所信表明をさせていただきたいと思ひます。

我々の日常生活を大きく様変わりさせた新型コロナウイルスの影響も全体的には徐々に少なくなりつつありますが、未だ時期や地域によっては変動が大きいケースも発生しており、団体での活動が主体となる我々親の会にあっては、依然として感染拡大前の活動状況とはほど遠い状況です。それは事業活動にとどまらず、全道各地区で活動の基本方針を決定する総会も開催できない状況が継続しているなど、親の会活動の今後の展望が見通せないといった声も寄せられております。

そのような状況の中で、直近の2年間は書面開催としておりました北海道協議会の定期総会を、今年度は皆様のご協力のもとZOOMを使用したオンラインでの開催とすることができました。

詳細は別途総会報告にて行わせていただきますが、モニターを通してではあっても顔が見えて声が聞こえているという疑似対面の感覚は、書面決議では得られなかった「心の交流」があったのではないかと感じました。

対面開催とすることはできなかったものの、物理的に広大な北海道を考えた場合に、WEBによる参加という手法は「開催地から遠隔地に居住する方への利便性」等を考慮すれば必ずしもデメリットばかりではなく、従来のように定期総会を対面開催とすることが可能となるかどうかが見通せない状況の中、今後はどのような開催方法が望ましいのかを、一定の時間をかけて会員の皆様の要望をいただきながら検討を重ねていきたいと考えています。

会長としての4期目が始まりましたが、北海道協議会の運営という意味では徐々に厳しい状況になりつつあるといわざるを得ません。新型コロナウイルスの影響により活動を休止せざるを得ない地区の増加、各地区での会員数の減少、社会全般に構造改革が進み親の会活動に関わる使用料の値上げ等の発生など、様々な部分で従前に比べると制約が増加しています。そのような中で、北海道協議会の活動が「会員の皆様に波及効果をもたらしていると思われるもの」についての情報提供の方法など、会員の皆様との情報共有の方法を始め取り組みの不足は反省しつつ分かりやすい取り組み方に努めていかなければならないと考えています。

北海道協議会は設立から50年を超える歴史のある組織です。しかしながら、どのような組織も「歴史の重み」だけで存続できる時代ではなくなってきています。ましてや、北海道協議会は全道各地の親の会をつなぐ広域連合であるため、少数の役員だけの見識で時流に即した組織作りを行ってゆくことも困難です。各地区の皆様は活動状況のアンケートをお願いし回答をいただいたところ、それぞれのご苦勞や窮状が綴られているものも見受けられましたが、そのアンケートを活用して「全道で交流会を実施した場合は参加したい」という声が相当数存在したことは、北海道協議会の役割として重く受け止め取り組みたいと思います。

総会時にもお話をさせていただきましたが、北海道の「どこにいても親の会活動に参加できる」ことを実感していただけるよう、WEB化は運営の手段として大きく取り入れて行きたいと思っておりますので、(研修会の開催や茶話会の実施など)会員の皆様の要望がありましたら、事務局までお寄せください。要望の実現に向けて取り組みを進めていきたいと思っています。

最後になりますが会員の皆様、そして日頃より、子どもたちの健やかな成長に情熱を持って接していただいている先生方並びに関係者の皆様が、ご家族健康でお過ごしくださること、そして天変地異なく、新型コロナウイルスが収束に向かうようご祈念申し上げ、年度初めのご挨拶、そして会報第179号の巻頭言とさせていただきます。



令和4年度 ことばを育てる親の会北海道協議会



定期総会のご報告



5月14日(土)に、WEB方式により開催されました。

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課 精神医療担当課長 河谷 篤 様、北海道教育庁学校教育局特別支援教育課課長補佐 仙北谷 逸生 様、北海道言語障害児教育研究協議会 会長 森實 啓之 様より、書面にて御挨拶をいただきました。

令和4年度ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会開催にあたってのご挨拶

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

精神医療担当課長 河谷 篤

令和4年度ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会の開催にあたり、本書面を通して一言ご挨拶を申し上げます。

ことばを育てる親の会北海道協議会の皆様には、日頃から本道の障がい福祉行政の推進に、ご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げますとともに、ことばやきこえなどに心配のあるお子さんの教育や福祉の向上のため、相談会や療育キャンプの実施などに積極的に取り組まれていることに対しまして、心から敬意を表します。

聴覚に障がいのあるお子さんへの支援については、早期発見と早期から適切な療育を行うことが重要であることから、北海道では、北海道教育委員会と連携して、聴覚に障がいのあるお子さんの療育にあたっている職員への個別の療育研修のほか、難聴と思われるお子さんを早期に療育につなげることができるよう、難聴に関する基本的な知識や療育方法などの研修会も各地域にて実施しております。

今後とも、聴覚に障がいのあるお子さんの早期発見及び適切な早期療育について、地域における様々な機関や関係団体の皆様との協働により取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ことばを育てる親の会北海道協議会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、挨拶といたします。



令和4年度特定非営利活動法人ことばを育てる親の会
北海道協議会定期総会挨拶要旨

令和4年度特定非営利活動法人ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会の開会に当たり、北海道教育委員会といたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

貴会におかれましては、日頃から、障がいのある子どもの教育や福祉等の振興・充実に對しまして、多大なる御貢献をいただいておりますことに、心から敬意を表します。

さて、昨年6月、文部科学省から「障害のある子供の教育支援の手引」が公表され、障がいのある子どもの「教育的ニーズ」を整理するための考え方のほか、就学先の学校や学びの場を判断する際に重視すべき事項等が改めて示されました。また、障がいのある子どもやその保護者、市町村教育委員会をはじめ、多様な関係者が多角的、客観的に参画しながら必要な支援を行う際の基本的な考え方が示されており、言語障がいのある子どもの適切な学びの場の支援の充実が求められています。

昨年度、札幌市を除く道内における言語障がい特別支援学級の在籍児童生徒数は約583名、通級による指導を受けていることばに障がいのある児童生徒数は2,613名であり、その数はともに増加傾向で、ことばに障がいのある子どもへの専門的な指導や支援に関するニーズが高まっている現状です。

このような中、北海道教育委員会では、昨年度、「特別支援教育オンライン授業改善セミナー」を各管内で開催し、言語障がい特別支援学級や通級指導教室の授業公開及び協議を行い、経験の浅い教員が、距離を超えて先輩教員の授業を見ることのできる大変よい機会となりました。本年度も引き続き、ことばに障がいのある子どもたちの能力を最大限に引き出すことができるよう、本セミナーを実施するなど、担当者の更なる授業力向上に向けて取り組んでまいります。

さらに、各市町村教育委員会に対しては、就学事務担当者が特別な教育的支援を必要とする子どもの就学について理解を深め、就学事務に関する適切な手続きを進められるよう研修会を実施するなど、本人・保護者にとって安全で安心な学びの場づくりに引き続き取り組んでまいります。

貴会におかれましては、従来から、保護者と学校が一体となって子どもへの指導の充実を図る取組を進められておりますが、引き続き道教委とも情報を共有しながら、ことばに障がいのある子どもたちが将来、地域で活躍できるよう歩みをともにして、取り組んでいただきますようお願いいたします。

結びに、本年度は、「全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会」が千歳市で開催されると同っており、本大会が、ことばの発達を支える「心の育ち」を大切にした支援の在り方を考える貴重な会となるよう祈念しております。

北海道教育委員会といたしましては、こうした研究大会を通して、言語障がいのある子どもたちに対し、一人一人の教育的ニーズに応じた専門性の高い教育を推進してまいりますので、ことばを育てる親の会の皆様には、今後とも御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、挨拶といたします。

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課課長補佐 仙北谷 逸 生



ご挨拶

北海道言語障害児教育研究協議会

会長 森實 啓之

日頃より、北海道言語障害児教育研究協議会（道言協）の活動に対しまして、厚いご支援・ご協力をいただき、大変感謝しております。

道言協は、北海道におけることばやきこえの教室の教育や療育を充実させるための研究組織として1968年（昭和43年10月）に発足し、50年以上の歴史がある会です。

本会は、全道を11ブロックに分けて、ブロックごとに研究活動을続け、毎年、持ち回りで研究大会を実施しております。昨年度は予定しておりました稚内での研究大会をコロナ禍により残念ながら中止といたしまして、記念講演会の動画配信を行いました。今年度は千歳市において第55回研究大会千歳大会を9月15日（木）から10月15日（土）にオンデマンドによる映像配信で開催いたします。この千歳大会は、全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会の全国大会を兼ねております。

さて、昨年夏に開催された東京オリンピック・パラリンピック2020を契機に、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が設定され、多様性を相互に尊重し相互に支え合う社会づくりが進められています。今後も、共生社会を形成する意識や取組が一人一人に根付き、さらに広がっていくことが望まれます。学校現場においても児童生徒の多様化が見られています。児童生徒の理解や対応について、特別支援教育がこれまでも大切にしてきた一人一人をしっかりと捉え個々の可能性を最大限に伸ばすと言った視点が、これからもますます重要となります。

また、学習指導要領には、特別な配慮を必要とする子どもへの指導として、通級指導を受ける子どもや特別支援学級に在籍する全ての子どもに個別の教育支援計画や指導計画の作成が義務付けられております。通級教室での指導を通して、お子さんの様子をしっかりと捉え、保護者と学校が十分に話し合い、一人一人に合わせた、個別の支援計画・指導計画を作成し、指導に当たっていくことが求められています。

お子さんの健やかな成長をめざした指導には、私たち教職員と保護者の皆さんとの情報共有と連携が不可欠です。同時に、ことばを育てる親の会北海道協議会の活動を通して、保護者の皆さんのつながりや情報交換する交流の場をもつことも、お子さんの成長に欠かせないものと考えています。

今後とも、道言協の活動に対しまして、変わらぬ、ご理解とご協力をお願いするとともに、ことばを育てる親の会北海道協議会の今後の発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



令和4年度定期総会報告

特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会 長 福 井 紀 郎

特定非営利活動法人にとって、一年に1回の会員の皆様から直接ご意見・ご要望をお伺いすることのできる貴重な機会である定期総会、この機会に是非とも多くの会員の皆様にご参加いただきたく従前から様々な取り組みを進めてきました。定期総会の開催時期が、特定非営利活動法人法の定めにより会員の皆様の都合の良い時期にうまく重なるようには設定することが難しいため、せめて「開催時期の事前告知をできるだけ早く」との考えから、令和4年度に関しても令和3年度に引き続き約1年近く前に会場を確保しホームページへの告知を行うなど、多くの会員の皆様にお集まりいただけるよう取り組みを進めてきました。前事業年度である令和3年度の定期総会は2年連続となる書面表決にて実施せざるを得なかったため、令和4年度については是非とも対面で会員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら定期総会を執り行いたいと準備を進めておりましたが、ご承知のとおり、新型コロナウイルスの影響は未だ収束したと言える状況には至らず、感染防止対策を行ったとしても、多数の参加者が会場に集うことによる感染リスクが少なくはないと判断せざるを得ませんでした。

しかしながら、あまりにも長い期間にわたって書面開催が続き意見交換が活発に成されないことを回避したい意向と、「テレワーク」等に見られるWEBを活用した会議・総会の手法が広まってきたことも相まって、令和4年度の定期総会はZOOMを利用したWeb会議として開催する方針を決定しました。

Web会議として行う定期総会は従前の「対面の定期総会」とは完全には同一とは言えないものの、双方の「顔」を見ながら対話できるということは書面決議との大きな違いとの思いを新たにしました。

定期総会は谷口大朗副会長の司会で始まり、太田理事による開会宣言の後、福井会長から「前2か年度はコロナ禍の環境下で書面開催とせざるを得なかったが、この間のWeb体制の充実等により画面越しではあるが顔を見ながら開催できるようになったことを嬉しく思う。Web開催での効率を考え、来賓にもこの場でご挨拶をいただくのではなく、新年度第1号の会報にて寄稿をいただくこととしているので了解いただきたい。顔を見ながらであれば、伝えたい思いの届き方もより強くなるのではないかと思いますので、是非、日ごろより北海道協議会に対して感じている思いや地区の実情などを忌憚なくお話いただければと思う」といった趣旨の挨拶が行われました。

議事に先立ち、議長には音更ことばを育てる親の会の佐藤則子先生、議事録署名人には北広島ことばを育てる親の会の鈴木奈津美さん、札幌市ことばを育てる親の会の加茂里織さんが選出され、丸山事務局次長より「活動地区36地区、出席地区14地区、会長一任18地区、総会参加者への委任1地区」により本総会が成立していることの宣言が行われました。

次に議事に入り、会長から「令和3年度は未だコロナ禍の環境下で、密集状態となる集団での行事は実施することが叶わず、道言協様と共催の「特別支援教育研修会」も自己資金でWe

b (Y o u T u b e 配信)で行ったことにより、すべての補助事業は中止扱いとした」と第1号議案の説明が成され、承認されました。

続いて沓澤事務局員より「収入の部では令和3年度は事業活動を行えなかった地区が多かったことから地区負担金を通常の半額としており、第1号議案での説明にもあったように補助事業を中止したとこと相まって収入額が大きく減っていること、支出の部では事業を中止したことから事業費が減少していることや理事会をW e bで行う等経費節減に取り組んだこともあり、相当の減額となっている」との2号議案の説明が成され、承認されました。

続いて高瀬監事より「令和3年度 会計監査の結果、現金・預金及び収支の諸帳簿等は、適切に処理されていると認める」旨の監査結果報告が行われ、承認されました。

続いて会長より「令和4年度も前年度同様な事業・活動計画としている。新型コロナウイルスの影響により多くの会員が現地に集う形式の事業は未だ難しいと想定されることから、前年度すべての補助事業を中止としたことも勘案して、補助事業として開催する行事は想定をしていない。しかしながら、この2年間各地区同様に北海道協議会としても現実の行動を伴えず事業が停滞していたものが、社会的にもリモートの活用事例が蓄積されたことも相まって、従来から課題として掲げてきた「どこに住んでいても同じレベルの支援を受けられる」という意味では広大な北海道にとって非常に有効なツールとして位置づけることができるようになったと考えている。そのことから、総体として前年度と同じ文字面とはなっているが、実現に至るプロセスとしてはまったく違ったアプローチができるのではないかと考えており、会員の皆様との結び付きを深めるための「Web 茶話会」を定期的を実施するとか、参加する側にとっても負担の少ない新たなスタイルを試みてゆきたいと考えている。なお、Web セミナーを前提に考えれば、開催にかかる労力や費用的な部分でも従来型のものに比し相当軽減・節減される部分があるので、会員の皆様から要望があれば可能な範囲でそういったものにも応じてゆきたい」と4号議案の説明があり、承認されました。

続いて会長より「活動休止地区が生じてきており、それに伴い自主財源である分担金収入が減少してきている。自主財源が乏しいということは、自己資金（事業費負担金）を必要とする補助事業にも取り組めないということでもあり、憂慮すべき状態と考える。支出の部でも Web 化を推し進める中で相当な経費の縮減を図れてはいるが、節減にも限度がある中でギリギリの配分となってきている。親の会の事業の中で「親子療育キャンプ」というものは長い歴史の中で多くの会員間の結び付きや、子どもたちの情緒面等の成長に資してきた実績があり、柱として据えてきた事業であることから今年度も厳しい財政の中で傾斜配分を行った。しかしながら、今後の方向性について更なる検討が必要な時期にきていると考えている」と5号議案の説明があり、承認されました。

続いて会長から「一旦開催地として決定した旭川大会を新型コロナウイルスの影響を勘案して開催中止としたが、従来型の会場参集形式での開催は新型コロナウイルスの影響が未だ続く中で決断ができない状況である。研修会等でも共催をいただいている先生方の団体である道言協では前年度に引き続き今年度も Web (YouTube 配信方式) で全道大会を開催する予定であり、我々としても各地区から大会分担金の積み立てをいただいたまま長期間の開催保留は避け



あって、どのような状況にあっても影響を最小限にできるように Web 開催を念頭に置いて、開催準備を進めていきたい」と6号議案の説明がありました。参加者からは「全道大会への参加経験がなく、大会の流れの概要を説明してほしい」との要望があり、会長からの補足説明の後、承認されました。

続いて会長から「今年度の総会をもって定款の変更とはしないが、2点ほど今後の予定として事前説明をしたい。1点目は今回の総会のように Web での総会開催は「現時点では特例で有効だが可能な時期に速やかに「電磁的方法で決議を行うことが可能」な旨の定款変更を行うよう解説がされている」ことから、定款全体の文言整理を行って、可能であれば次回総会で会員の皆様の承認をいただきたいこと。2点目は定款上本協議会の事務所は「札幌市」とされているが、現在の登記上の住所からは違った住所に事務所を移転する予定であること」と7号議案の説明が行われました。参加者から「現事務所は役員宅に置いていると思うが、役員が替わるということか」との質問があり、会長から「役員の交代は次の議案で説明するが、質問のとおり受け取っていただいていたかまわない」旨の説明があった後、承認されました。

続いて会長から「今回の役員改選で永らく本協議会の活動にご尽力いただいた谷口（大）副会長、谷口恵美子専務理事が退任する。そしてオホーツクブロックの北見から選出されていた橋本理事も後任の方に交代する。新任はオホーツクブロックから網走の大類理事」と8号議案の説明がありました。参加者からは「実際の会場ではないので簡単なセレモニーもままならないが、大変なご尽力をされた方たちなので、退任の方への何かセレモニー的なものは考えていないのか」とのご意見があり、会長から、会員の方からもそういった意見をいただけることは大変にありがたいことだと考えている。その思いに応えられるよう検討したい旨の返答があり、承認されました。

また、会長については理事会より福井会長が推薦され、再任が承認されました。

議事が終了し、丸山事務局次長より事務局員の留任や事務局員（事務局校）の紹介が行われました。

その他として退任する理事からの挨拶があり、橋本理事からは「2年間コロナで活動がままならなかったが、収まって活動できるようになることを願っている」、谷口（大）副会長からは「16年間お世話になったが、今後は新しい理事の体制の元で活動を進めていってもらえればと願う」、谷口（恵）専務理事からは「半世紀にわたって関わらせていただいた。子どもが3歳の頃から、いろいろな関わりを持たせていただいて感謝している。これからは地区数も減って、整理していかなければならないこともあって大変かもしれないが、横の繋がりを大切に力を合わせて頑張してほしい。キャンプで育てられた私なので、キャンプを頑張してほしい」と感謝のことが述べられました。

最後に太田理事より「閉会宣言」が行われ、令和4年度の定期総会を終了しました。





理事会報告

2022年4月9日(土)に 74 回理事会を行いました。

主に5月14日の総会に向けて、以下のことを検討しました。

- ① 総会の開催方法と、総会議案の確認について
- ② 全道大会について
時期は未定ですが、WEB での開催も想定して、実施の方向で今後検討していきます。
- ③ 定款の変更提案について
WEB 開催や事務所の移転についての確認が行われました。
- ④ 会報の HP 掲載について
・ 会報の郵送希望について、確認を行いました。
・ 会報発行ごとに、各地区にメールで連絡します。パスワードなしで閲覧可能なようにしますが、個人が特定される場合、それらを省く形で掲載します。
(会報の郵送に関する変更希望については、事務局校にお問い合わせください。)
- ⑤ 会報発行計画について
・ 会報記事の分担を行いました。

令和4年度 特定非営利活動法人

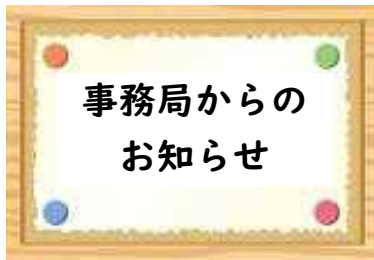
ことばを育てる親の会北海道協議会 役員名簿

令和4年6月1日現在

顧問	谷本保子	丹崎信夫	跡部敏之	土谷さとる	高井祐二
	坂本 武	中山忠道	福光哲夫		
相談役	土本照子	山根 勸			
会長	福井紀郎 (幕別)				
副会長	(未定)				
専務理事	(未定)				
理事	山本光子 (栗山)	齋藤寛子 (札幌)	石川俊男 (札幌)		
	太田真知子 (札幌)	福島美恵子 (札幌)	大類典子 (網走)		
監事	菅原有美 (札幌)	高瀬ひとみ (千歳)			
事務局長	(未定)				
事務局次長	丸山大樹 (札幌 中央小)				
事務局員	沓澤真喜子 (札幌 会計)	宮本 茂 (札幌)			
	佐藤美紀 (札幌 清田小)	竹森陽子 (札幌 清田小)			
	市川すみれ (札幌 前田小)	森田 希 (札幌 前田小)			
	赤坂 玲 (札幌 中央小)	佐藤佳明 (札幌 中央小)			

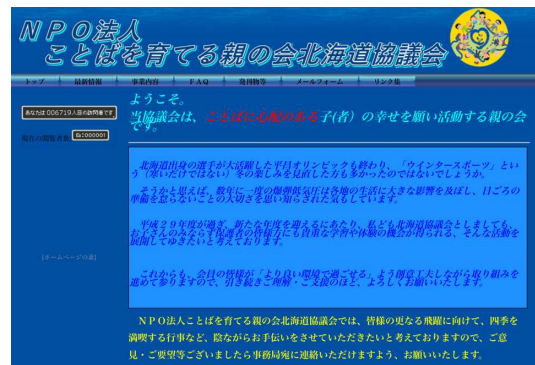
どうぞよろしくお願いいたします。





(ホームページ案内)

北海道協議会では、ホームページでも
いろいろな情報をアップしています。
どうぞご覧ください。



URL: [http:// www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html](http://www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html)

○親の会の事務局連絡校は下記のとおりです。お問い合わせは下記までお願いします

〒060-0041 北海道札幌市中央区大通東 6-1 2

中央小学校ことばの教室

電話(直通) 011-241-2533

○地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。

(ゆうちょ銀行の ATM を利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎



HSK 会報 昭和 48 年 1 月 13 日第三種郵便物承認 (毎月 10 日発行)

2022 年 6 月 10 日会報 179 号 (HSK 通巻 603 号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 福井 紀郎

定価 100 円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東 6-1 2

札幌市立中央小学校ことばの教室内 TEL011-241-2533